



# Collegium Baroque Periodus



Demokritos Epikouros Archimedes Copernicus Galileo Hooke Newton Lavoisier Faraday Darwin

バロック・ピリオドの集い  
科学も 絵画も 音楽も

∞ ゆがんだ真珠って ∞

とき: 気持ちのいい日曜日に

ところ: SAKURA Cafe



ゆがんだ真珠って・・・

☆プログラム☆

科学:天体と大地

絵画:光と影の風景

音楽:ピリオド楽器の調べ

☆今後の予定☆

4月:やまのて音楽祭

6月～:バロック音楽の旅fromNAGOYA

8月:チェンバロ・マンドリン演奏会

12月:天体の音楽

Universal ACADÆMIA  
of  
Art & Science



<http://artandscience.jimdo.com>

お問い合わせ・連絡先

TEL 090-4113-9585 喜多村

E-mail [arttosci@yahoo.co.jp](mailto:arttosci@yahoo.co.jp)

☆集いの特典☆

講座・公演の優先してのお知らせ

講座・公演の年間を通じた割引



## ☆バロックの意味☆

バロック (baroque および Barock) とは、1500年代から1700年代にかけて、イタリア、とくにローマ、マントヴァ、ヴェネツィア、フィレンツェで誕生し、その後、ヨーロッパ全土へと急速に広まった文化の様式です。バロックの様式は秩序と運動の矛盾を超越するための大胆な試みとして、ルネサンスの芸術運動の後に始まりました。カトリック教会による反・宗教改革運動や、ヨーロッパ諸国の絶対王政を背景に、影響は彫刻、絵画、文学、建築、音楽などあらゆる領域に及び、誇張された動き、装飾の多用、光と影の対比のような劇的な効果や緊張、大仰な演出などにより、ルネサンスの整った様式に比べて「歪んだ真珠」に例えられて批判的な意味で名付けられた、といわれています。

「バロック・ピリオド」とは、そういったバロックの様式を謳歌した「時代」のことです。

## ☆バロックの基本って☆

ふつう、「基本的」なるものは、もともと先にあったもの、のように思われています。

そういう「基本」が年月を経て、歪んだり汚れたり、味わいが出たりして、さらに「派生」「例外」を経て混沌：カオス のなかに溶け込んでいく・・・ように思われている。

でも、それは逆なのだろうと思います。

なんだかよくわからないもの；カオス として、まずは、誕生する。「それ」が魅力的であったり、気持ちよかったり、役に立ったりすると「それ」は持続する。

そこまでの間、「それ」はまったく「基本」などではなく、社会から蔑まれたり怪しからんものと言われたりするわけです。

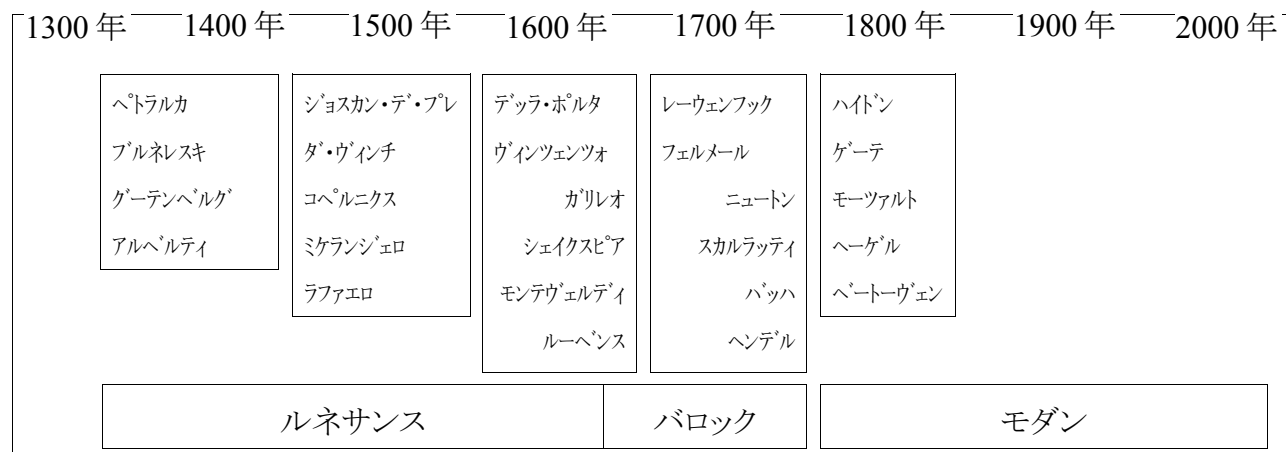
おもしろいもの、効果あるものとして人気や評判を得た「それ」は、やがて、「それ」自体が価値あるものとして、それをつくりあげようとする者に出合います。「基本のそれ」は、ここからはじまるのだらうと思います。

最初は、あやしくも魅力あるものとしてはじまるのでしょう。やがて、そのあやしさが輪郭を持ってきて、「それ」が魅力あるものの「基本」となる。

そして、「それ」は、ただのあやしくも魅力的なもの、ではなくなってくる。すごいものやら、まねしたいたこと：もの・こと の基本になっていく。

科学だって、絵画だって、音楽だって、みんなそうであったはずです。

いつまでも、あやしくも魅力的なものであろうとする、そして、「遊びをせんとや生まれけむ」、バロックの基本は、まさにここにあるのだと思います。



年	歳	ジョスカンデブレ	ダヴィンチ	ミケランジェロ	ラファエロ
1440	0	フランス サン=カンタン			
1441	1				
1442	2				
1443	3				
1444	4				
1445	5				
1446	6				
1447	7				
1448	8				
1449	9				
1450	10				
1451	11				
1452	12		0歳 イタリアトスカーナ ウィンチ		
1453	13				
1454	14				
1455	15				
1456	16				
1457	17				
1458	18				
1459	19				
1460	20				
1461	21				
1462	22				
1463	23				
1464	24				
1465	25				
1466	26		フィレンツェ ウェロッキオ工房		
1467	27				
1468	28				
1469	29				
1470	30				
1471	31				
1472	32		聖ルカ組合(画家組合)登録		
1473	33				
1474	34				
1475	35	プロヴァンス ルネ王楽団員		0歳 フィレンツェ カプレーゼ	
1476	36				
1477	37				
1478	38				
1479	39				
1480	40	ルイ11世下の楽団員に			
1481	41				
1482	42		ミラノ公仕 工房を開く		
1483	43	コンテ=シュル=レスコー滞在			0歳 イタリア ウルビーノ
1484	44	アスカニオ・スフォルツァの庇護			
1485	45				
1486	46	教皇庁礼拝堂付聖歌隊			
1487	47				
1488	48			ドメニコ・キランダイオ弟子入り	
1489	49	ミラノ公「公爵の音楽家」		メディチ家派遣	
1490	50			プラトン・アカデミー参加『階段の聖母』	
1491	51			『ケンタウロスの戦い』	
1492	52			『キリスト磔刑像』	
1493	53				
1494	54			メディチ家再招聘 サウオナロー扇動	父ジョヴァンニ・サンティ死去 絵画学ぶ
1495	55		『最後の晩餐』制作		
1496	56			ローマ着 『ハッカス像』制作	
1497	57				
1498	58			『ピエタ』制作	『幼子の聖母』
1499	59			フィレンツェ帰還	
1500	60	ルイ12世宮廷楽団	マンヴァ巡行 ウェネツァからフィレンツェ		
1501	61				『タコステイーノ教会祭壇画』
1502	62		教皇軍軍事顧問兼技術者		
1503	63	フェラーラ着	『モナリザ』制作		
1504	64	フェラーラでベスト流行		『ダウイテ像』制作 『聖家族』完成	フィレンツェ 『聖母の結婚』
1505	65			ローマ教皇に召還	
1506	66		ミラノ 帰還		
1507	67				『美しい女教師』
1508	68			『アダム』制作	『天蓋の聖母』ローマ移住
1509	69				ウァチカン宮殿 『アテネの学堂』
1510	70				
1511	71				
1512	72				『システイーナの聖母』 肖像画制作
1513	73				
1514	74				
1515	75		フランスワ1世ミラノ占領		
1516	76		フランスワ1世アンボワーズ城クルーの館		
1517	77				
1518	78			ブルネスキ: ロレンツォ大聖堂ファサード受	
1519	79		没 アンボワーズ		
1520	80				没 ローマ バンテオン埋葬
1521	81	没 コンテ埋葬		1564 没ローマ サンタ・クロチエ聖堂	

年	歳	ガリレオ	シェイクスピア	モンテヴェルディ	ルーベンス
1564	0	トスカーナ大公領 ピサ	ストラトフォード・アボーン・エイヴォン		
1565	1				
1566	2				
1567	3			0歳 北伊 クレモナ	
1568	4				
1569	5				
1570	6				
1571	7				
1572	8				
1573	9				
1574	10				
1575	11				
1576	12				
1577	13				0歳 独西北 ジーゲン
1578	14				
1579	15				
1580	16				
1581	17	ピサ大学入学			
1582	18		アン・ハサウェイと結婚	「三声のモテット集」	
1583	19				
1584	20				
1585	21				
1586	22	『小天秤』			
1587	23			「マドリガーレ集」	アントワープ(フランドル)に戻る
1588	24				
1589	25	ピサ大学教授			
1590	26			マントヴァ宮廷 ウィラ・ダ・ガンパ奏者	
1591	27				オットー・ファン・フェーンに師事
1592	28		『間違いの喜劇』		
1593	29	『機械学(Le Meccaniche)』	『じゃじゃ馬ならし』		
1594	30		『ヴェローナの二紳士』		
1595	31		『ロミオとジュリエット』、『夏の夜の夢』		
1596	32		『ヴェニス商人』		
1597	33	地動説承認をケプラー宛に	『ウィンザーの陽気な女房たち』		
1598	34		『空騒ぎ』		
1599	35		『ジュリアス・シーザー』、『お気に召すまま』		
1600	36	マリ・ド・メディシス(伊一仏)	『ハムレット』		マントヴァ公宮廷画家
1601	37		『トロイラスとクレシダ』		
1602	38		『終わりよければ全てよし』	マントヴァ公宮廷楽長	
1603	39		エリザベス I 没		
1604	40		『オセロー』		
1605	41		『リア王』		
1606	42		『マクベス』、『アントニーとクレオパトラ』		
1607	43		『コリアレイクス』、『アテネのタイモン』		
1608	44				翌年 西イザベル女王宮廷画家に
1609	45	望遠鏡自作	『シンペリン』		「キリストの昇架」 イザベラと結婚
1610	46	『星界/報告』木星衛星発見	『冬物語』	「聖母マリアのタベの祈り」	「キリスト復活」
1611	47	アカデミア・デイ・リンチェイ 入会	『テンペスト』		
1612	48				「キリストの降架」
1613	49	『太陽黒点論』	『二人のいとこの貴公子』	ヴェネツィア サン・マルコ寺院楽長	
1614	50				
1615	51			「主に向かって新しき歌を歌え」	
1616	52		没 ストラトフォード・アボーン・エイヴォン		
1617	53			「行け、風の翼に乗って」	
1618	54			「聖母マリアよ」	「レウキッポスの娘たちの略奪」
1619	55				
1620	56			「逃れよ、わが魂よ」など	
1621	57				
1622	58			「おお、慈悲深きイエス、・・・」	「マリー・ド・メディシスの生涯」
1623	59	『賈金鑑識官』			
1624	60			「めでたし天の女王」	
1625	61			「われは眠る、されど心はさめて」	「聖母被昇天」
1626	62				
1627	63			「われ主に感謝せん」	
1628	64				外交特使で西へベラスケスと会う
1629	65			「シオンの娘よ、喜べ」	
1630	66				「エレヌ・フルマンの肖像」
1631	67				
1632	68	『天文対話』			
1633	69				
1634	70				
1635	71				
1636	72				
1637	73				
1638	74	『新科学対話』			
1639	75				
1640	76				63歳没 アントワープ(聖ヤコブ教会)
1641	77				
1642	78	没 フィレンツェ アルチェトリ			
1643				76歳没 ヴェネチア	

年	歳	レーウェンフック項目	科学史項目	フェルメール項目	歳
1632	0	デルフト東端にて生誕	深田正室己「万国全図準天儀」	デルフトにて生誕	0
1633	1				1
1634	2				2
1635	3		ケリブランド[英]磁針偏角永年変化		3
1636	4		デザルク[仏]『透視法』射影幾何学		4
1637	5		デカルト[仏]幾何学		5
1638	6				6
1639	7				7
1640	8				8
1641	9		吉田光由『塵劫記』	父、宿屋「メーヘレン」を購入	9
1642	10		タスマニア[蘭]ニューゼーランド発見		10
1643	11		トリチェリ[伊]真空の発見・水銀気圧		11
1644	12				12
1645	13				13
1646	14				14
1647	15		ヘウリウス[独]『月理学』		15
1648	16	アムステルダム織物商に奉公	バスカル[仏]高度による気圧変化	画家修業を始める	16
1649	17				17
1650	18	デルフトにて結婚 織物商	ハーウィー[英]『動物発生論』		18
1651	19				19
1652	20			父死去 宿屋と画商業継承	20
1653	21		ルートベック[典]リンパ管系発見	結婚 カリックに改宗 聖ルカ組合に画家登録	21
1654	22		「マグテブルグの半球」公開実験	デルフト大火 『マルタとマリアの家のキリスト』	22
1655	23		ホイヘンス[蘭]自作望遠鏡で土星環	『聖フラクセティス』『ティアナとノンパたち』	23
1656	24			『取り持ち女』風俗画始める	24
1657	25		ホイヘンス: 振り時計実験アカデミ[伊]	『眠る女』『窓辺で手紙を読む女』『小路』	25
1658	26		グラウバー[独]食塩と硫酸から塩酸	『牛乳を注ぐ女』	26
1659	27		沢野忠庵『乾坤弁説』		27
1660	28	デルフト議会の管理官	ホイイル[英]気体則フック[英]弾性則	『デルフトの眺望』『兵士と笑う娘』『葡萄酒のグラス』	28
1661	29		ホイイル『懐疑的な化学者』王立学会		29
1662	30		グラント[英]死亡統計フェルマ[仏]光	聖ルカ組合の理事に選出 『音楽の稽古』	30
1663	31		黒川道祐『本朝医考』(医学史)	『手紙を読む青衣の女』	31
1664	32		キルヒヤー[独]『地下の世界』	『天秤』『リュート』『真珠の首飾り』『水差し』	32
1665	33		フック[英]『ミクログラフィア』	『真珠の耳飾』『手紙』『赤帽子』『合奏』『フルト』	33
1666	34		ニュートン[英]光の分散研究	『絵画芸術』『少女』	34
1667	35		フック[英]呼吸の生理的研究	『婦人と召使い』	35
1668	36		ニュートン[英]反射式望遠鏡	『天文学者』『地理学者』	36
1669	37	測量士として公認	ブラント[独]リンの発見	『レースを編む女』『恋文』	37
1670	38			『ギターを弾く女』『手紙を書く婦人と召使い』	38
1671	39	再婚	ライブニッツ[独]加減乗除計算機	『信仰の寓意』『』	39
1672	40		カッシーニ[伊]太陽の距離を算出	イタリア絵画の鑑定	40
1673	41		ホイヘンス[蘭]『振り時計』	借金返済のため債権売却	41
1674	42	赤血球発見	フック[英]『地球の運動証明試み』		42
1675	43	フェルメールの遺産管財人	ニュートン[英]ニュートン環の発見	『ヴァージナルの前に座る女』デルフトにて死去	43
1676	44		洪川春海『日本書紀暦考』	遺産の動産目録作成さる	
1677	45	精子を発見	洪川春海『日本長曆』	遺産の絵画の売り立て開催	
1678	46		洪川春海秋分点観測		
1679	47	ワイン軽量官も務める			
1680	48	ロイヤルサイエティ(王立学会)会員	ホイヘンス[蘭]ヒストン火薬機関		
1681	49				
1682	50		グリュー[英]『植物の解剖学』		
1683	51	原生動物・バクテリアの発見			
1684	52		カッシーニ[伊]土星の衛星発見		
1685	53		建部賢弘『発微算法演段診解』		
1686	54		レー[英]『一般植物学』		
1687	55		ニュートン[英]『プリンキピア』		
1688	56		ブランカト[蘭]『合理的実用解剖書』		
1689	57		ヤコブ・ヘルヌーイ[瑞]無限級数研究		
1690	58		バハーン[仏]大気圧蒸気機関		
1691	59				
1692	60				
1693	61		ライブニッツ[独]『プロトギア』(地球生成)		
1694	62		カメラリウス[独]『植物の雌雄』		
1695	63	『顕微鏡で顕された自然の秘密』			
1696	64		ヨハン・ヘルヌーイ[瑞]最速降下線研究		
1697	65		シュタル[独]フロキストン(燃素)説		
1698	66		セウァリー[英]揚水用蒸気機関		
1699	67				
1700	68		ブロイセン科学アカデミー創立		
1701	69		ハリー[英]『羅針儀の偏差の地図』		
1702	70		シュタル[独]フロキストン説完成		
1703	71				
1704	72		ニュートン[英]『光学』		
1705	73		ハリー[英]ハリー彗星の発見		
1706	74				
1707	75				
1708	76		ブールハーフェ[蘭]『医学原論』		
1709	77		ベックター[独]カオリン・マイセン磁器製造		
1710	78				
1711	79		ジョーア[英]音叉の発明		
1712	80		ニューマン[英]大気圧蒸気機関発明		
1713	81		ヤコブ・ヘルヌーイ[瑞]『推測術』		
1714	82		ファレンハイト[独]水銀温度計発明		
1715	83		テイラー[英]級数展開の定理		
1716	84				
1717	85		ヨハン・ヘルヌーイ[瑞]仮想変位原理		
1718	86		ハイステル[独]気管切開		
1719	87				
1720	88		ド・モアブル[仏]複素数		
1721	89		バルフィン[蘭]分娩鉗子発明		
1722	90		グレアム[英]地磁気方位角変化発見		
1723	91	気管支炎にて死去			

年	歳	ニュートン	スカルラッティ	バッハ	ヘンデル
1642	0	イングランド ウールズソープ バイカールスターワース			
1643	1				
1644	2				
1645	3				
1646	4				
1647	5				
1648	6				
1649	7				
1650	8				
1651	9				
1652	10				
1653	11				
1654	12				
1655	13	グランサム グラマースクール 入学			
1656	14				
1657	15				
1658	16				
1659	17				
1660	18	(ロイヤルソサエティ設立)			
1661	19	ケンブリッジ 大学トリニティ・カレッジ 入学			
1662	20				
1663	21				
1664	22				
1665	23	万有引力の発見			
1666	24	ベスト流行でウールズソープに戻り光学着想			
1667	25	ケンブリッジ 大学に戻りフェローに着任			
1668	26				
1669	27	ルーカス教授職に就任			
1670	28				
1671	29				
1672	30	ロイヤルソサエティ会員に選出			
1673	31				
1674	32				
1675	33				
1676	34				
1677	35				
1678	36				
1679	37				
1680	38				
1681	39				
1682	40				
1683	41				
1684	42				
1685	43		0歳 イタリア ナポリ	0歳 ドイツ アイゼルナハ	0歳 ドイツ ハル
1686	44				
1687	45	『自然哲学の数学的諸原理』刊行			
1688	46	ジェームズ二世下で庶民院議員			
1689	47				
1690	48				
1691	49				
1692	50				
1693	51				
1694	52				
1695	53				
1696	54				
1697	55				
1698	56				
1699	57	王立造幣局監事着任			
1700	58			リュネブルク修道院付属学校入学	イタリヤ各地を巡行 カンタータ オトリオ発表
1701	59		ナポリの教会付きオルガン奏者		
1702	60				
1703	61	ロイヤルソサエティ会長に選出		ヴァイマル宮廷楽団就職	
1704	62	『光学』刊行			
1705	63	アン女王よりナイトの称号授与			
1706	64				
1707	65			ミュールハウゼン 聖ブランクス教会オルガニスト 結婚	
1708	66			ヴァイマル宮廷オルガニスト	
1709	67				
1710	68				ハノーヴァー選帝候 宮廷楽長
1711	69				
1712	70				ロンドン移住
1713	71				
1714	72			ヴァイマル宮廷楽師長 カンタータ作曲	アン女王死去 ハノーヴァー侯がジョージ1世に
1715	73				
1716	74				
1717	75			ケーテン宮廷楽長	「水上の音楽」作曲および演奏
1718	76				
1719	77				
1720	78		ホルトカール リスボンでハルハラ王女に音楽を教授	妻急死	
1721	79			再婚 アンナ・マгдаレ・ヴァイク	
1722	80				
1723	81			ライプツィヒ 聖トーマス教会 カントル就任	
1724	82				
1725	83				
1726	84				
1727	85	没 ウェストミンスター寺院に葬られる			
1728					
1729			王女 スペインに降嫁 マドリッド ソナタ555曲の作曲	ヘンデルを招聘するも断られる	
1730					
1731					
1732					
1733					
1734					
1735					
1736				ザクセン 宮廷作曲家	
1737					
1738					
1739					
1740					
1741					
1742					
1743					
1744					
1745					
1746					
1747				ベルリン フリードリヒ大王宮廷へ「音楽の奉げもの」	
1748					
1749			1757年 没 マドリッド	内障眼の手術 悪化後1750年 没	52年に完全に失明 手術 悪化後 1759年 没